

鼠径部ヘルニア

【聖路加国際病院ロボット手術センター】

< 鼠径部ヘルニアの手術方法 >

01 経過観察

- すぐには治療せず無治療で経過観察
 - 数年で1～2%の患者さんで緊急の状態になり、場合により腸を切除する手術が必要になる
 - 多くの患者さんで膨らみが大きくなったり、痛みや違和感などを伴うようになる
 - 5年以上の経過観察で約7割の患者さんで手術が必要になるといわれている

02 手術

- 鼠径部切開手術
- 腹腔鏡手術
- ロボット支援手術

< 鼠径部ヘルニアの手術方法 >

01. 鼠径部切開法

4 ～ 6 cm の鼠径部の傷からヘルニアを修復します
標準的な手術です

02. 腹腔鏡手術

低侵襲※で傷が小さく、術後の痛みが少ない
縫合など技術的に難しい手術です
慣れていない外科医が行うと再発が多い

03. ロボット支援手術

腹腔鏡手術の良さに加え、技術的難点を克服した手術です

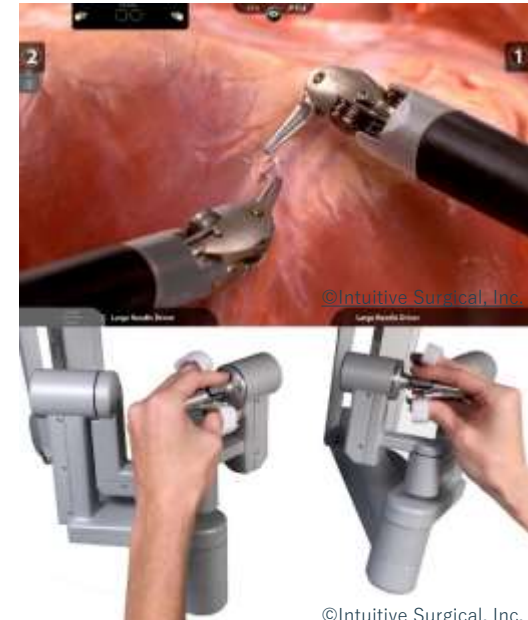
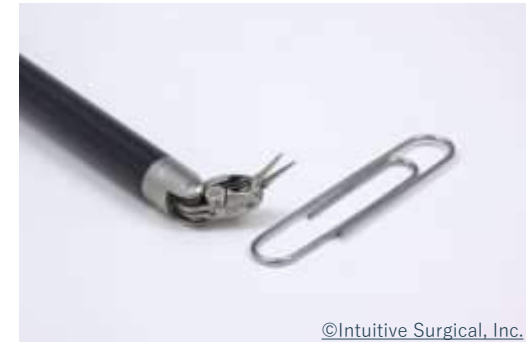


米国を中心に急速に普及しています

※低侵襲…手術・検査に伴う痛み・出血などをできるだけ少なくすること

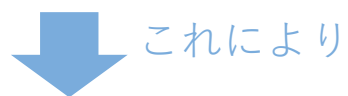
< ロボット支援手術とは >

腹腔鏡手術をさらに発展させた手術方式です。
高解像度3Dカメラ画像を見ながら、微細な動きを実現できるロボットアームを操り、より安全で体への負担が少ない手術を行えます。



<ロボット支援手術のメリット>

ロボット支援手術は、
より正確で、より安全な手術が可能となります。



メリット 開腹手術に比べ、傷が
01 小さく、痛みが少ない
手術です

メリット 従来の腹腔鏡手術より
02 も、容易な手術が可能
です

メリット 痛みや再発が少ないな
03 ど、早期の社会復帰が
期待できます

< 入院経過例 >

入院期間：2日間

1日目	手術当日	入院	入室前に排尿
	手術当日	術後4時間～	飲食や歩行再開
2日目	手術翌日	退院	シャワー
7～14日目	外来	退院後診察	

全身麻酔による手術ですが、尿の管を入れることはほとんどありません。
抜糸しなくてもよい縫合をおこなうため、抜糸也不需要ありません。